資料提供

2024年2月29日（木）
保健医療部感染症対策課　疫学グループ
担当：大芦（301-3233[内線：3280]）
福祉部障害福祉課　自立支援担当グループ
担当：浅山（301-3363[内線：3360]）

感染性胃腸炎の集団発生について

県内の下記の２施設において、感染性胃腸炎を疑う嘔吐・下痢・発熱の発症者が30名以上の集団発生がありました。入院者・重症者はおらず、患者は全員快方に向かっています。

類似施設の管理者や従事者におかれましては、施設内における適切な消毒の実施、嘔吐物等の処理方法の再確認をお願いいたします。

手洗いは、手指に付着しているノロウイルスを減らす最も有効な方法です。県民の皆様には、帰宅時・食事の前・トイレの後の手洗いを励行し、感染予防に努めていただきますようお願いいたします。

記

１　筑西保健所管内　障害者支援施設

〇　主な症状　　嘔吐、下痢、発熱

〇　発症状況　　2月17日から2月28日までに入所者28名（20歳代～60歳代）、職員10名（20歳代、30歳代）が嘔吐、下痢、発熱の症状を呈している。

〇　検査結果　　患者4名の検体(便)を検査したところ、3名の検体からノロウイルスが検出。

〇　発症者の年代別内訳

	区分	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	計
入所者	男性	2	5	7	2	0	16
	女性	2	3	4	2	1	12
	計	4	8	11	4	1	28

	区分	20歳代	30歳代	計
職　員	男性	3	3	6
	女性	2	2	4
	計	5	5	10

２　潮来保健所管内　障害者支援施設

〇　主な症状　　嘔吐、下痢、発熱

〇　発症状況　　2月18日から2月28日までに入所者41名（20歳代～90歳代）、職員22名（10歳代、30歳代～70歳代）が嘔吐、下痢、発熱の症状を呈している。

〇　検査結果　　患者6名の検体(便)を検査したところ、5名の検体からノロウイルスが検出。

〇　発症者の年代別内訳

	区分	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	計
入所者	男性	0	0	2	7	4	2	2	0	17
	女性	1	4	2	7	2	6	1	1	24
	計	1	4	4	14	6	8	3	1	41

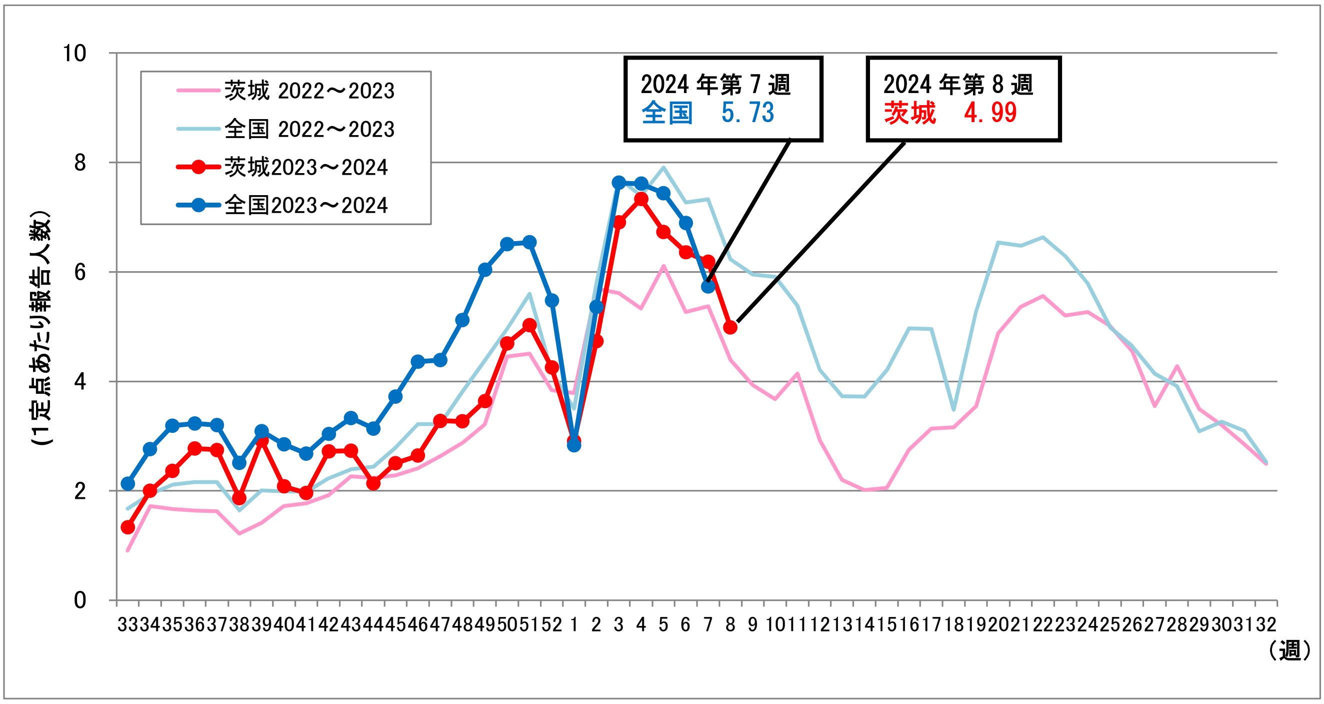
	区分	10歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	計
職　員	男性	1	0	1	2	1	1	6
	女性	0	2	4	3	6	1	16
	計	1	2	5	5	7	2	22

施設及び患者等の個人情報については、プライバシー保護の観点から特定されることのないよう、格段の御配意をお願いいたします。

感染症発生動向調査による感染性胃腸炎の流行状況

2024 年第 8 週（2024 年 2 月 19 日～2024 年 2 月 25 日）の定点当たり患者報告数：茨城県　4.99

定点当たりの患者報告数の推移



◆値は速報値です。今後数値に若干の変更が生じる場合があります。

※　定点当たりの患者報告数の推移

感染性胃腸炎は定点把握疾患であり、県が指定した県内 75 か所の小児科を標榜する医療機関を定点として指定し、その定点の医師から1週間に感染性胃腸炎と診断された患者数を保健所に報告いただいている。その患者数の総数を定点数（75）で除した数字で流行状況を把握している。（感染性胃腸炎　警報発令基準：20　警報解除基準：12）

＜参考＞

茨城県内の感染性胃腸炎の集団発生状況

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
茨城県	17 件	49 件	9 件	6 件	6 件	4 件	9 件	7 件	10 件	9 件

（注1）　集団発生状況は、医療機関・学校・社会福祉施設等において 30 名以上発生した件数を計上。

（注2）　2024 年の発生数は、今回の発生を含んでいます。

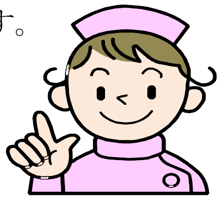
感染性胃腸炎に注意しましょう

- 感染性胃腸炎とは、ウイルスや細菌などが原因となって引き起こされる胃腸炎の総称です。感染性胃腸炎のなかで、もっとも多いのがウイルス性胃腸炎で、原因となるウイルスは「ノロウイルス」、「ロタウイルス」などがあります。
- 「ノロウイルス」による感染症や食中毒は一年を通じて発生していますが、例年冬になると発生のピークを迎えます。「ノロウイルス」は、少量でも感染力がとても強いことが特徴です。

症　状

ノロウイルスに感染すると 24～48 時間の潜伏期間を経て、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、発熱などの症状がみられます。通常、これらの症状が１～２日続いた後、治癒し、後遺症もありません。

主な感染経路



ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、経口感染が主な感染経路と言われています。
主に次のような感染が考えられます。

- 患者の便や嘔吐物などに触れた手から口に入る場合。
- 感染した人の調理や配膳などにより汚染された食品を食べた場合。
- 汚染されていた食品を、生あるいは加熱不十分で食べた場合。
- 家庭や共同生活施設など人同士が接触する機会が多いところで、人から人へ直接感染する場合。
- 感染した人の便や嘔吐物が乾燥して、細かな塵として舞い上がり、その塵と一緒にウイルスを吸い込んだ場合。

感染予防のポイント

① 基本的な予防方法は手洗いです。特に、排せつのあと、調理や食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。
② 食品は十分に加熱調理しましょう。食品の中心部で 85℃以上 90 秒間以上の加熱が必要です。
③ 感染を広げないための注意点
　・ 便や嘔吐物の処理のあと、排せつのあと、調理や食事の前には必ず石けんと流水で丁寧に手を洗い、手洗い後は、ペーパータオルか個人用のタオルを使用しましょう。
　・ 患者の便や嘔吐物を処理する場合は、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、適切な方法（リーフレット参照）で処理しましょう。「ノロウイルス」に効果がある消毒薬は、次亜塩素酸ナトリウムです。

感染性胃腸炎かなと思ったら

乳幼児や高齢者では下痢等による脱水症状を生じることがありますので、早めに医療機関を受診することが大切です。嘔吐の症状がおさまったら少しずつ水分を補給し、安静に努め、回復期には消化しやすい食事をとるよう心がけましょう。

◎ 感染性胃腸炎に関する詳細情報は、下記のホームページをご覧ください。

◆ リーフレット「ノロウイルスに注意！！」　茨城県感染症情報センター ホームページ
http://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/idwr/other/documents/noro-leaf.pdf

◆ 「ノロウイルスによる感染性胃腸炎や食中毒の予防について」 厚生労働省ホームページ
http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/iyaku/syoku-anzen/qa/about_norovirus_qa.html